子どもの生きる力を育む

子どもの参加する花のまちづくり ～家庭で、学校で、地域で～

福田　具可

今、問題になっているいじめをはじめ非行等の子どもが引き起こす問題行動は、「貧しい心」によるものと考えています。子どもに思いやりの心が育っていない、無責任、無関心等貧しい心が形成されてはいないか。子どもの問題行動を主として心の問題として捉えています。ですから、いじめをはじめ非行等の子どもが引き起こす問題行動は、人格発達の面から総合的に取り組んでいく必要を感じています。そこで、何よりも「豊かな心」の育成が一つの大きな教育課題としてあげられます。

私たちは、子どもの豊かな発達を願っています。豊かな発達は、豊かな心、豊かな体力、豊かな学力等を身につけた発達であると捉えています。生きる力は、その結果として身につくものであると思っています。

子どもの豊かな発達には、自然体験や人間関係を豊かなものとする活動が欠かせません。子どもの花を育てる活動は、それらの二つの活動体験の場でもあります。

今や多くの家庭で、プランター等のコンテナーで草花が飾られ、生活と花とは深くかかわっています。なぜ、花が生活と深くかかわってきたかといえば、花そのものに内在するパワーがあるからではないだろうか。花は、われわれに潤いと安らぎを与えてくれ、心や気持ちを和らげたり、癒してくれたり、生活を豊かにしてくれたりする力を持っています。花は、「生きる力」を与えてくれることさえあります。花を育てたり、飾ったり、見たりすること等を通して、心豊かな生活が期待できます。

また、花のもつ力は、まちづくり、地域づくりにも生かされています。そのひとつが、「国際花と緑の博覧会」を契機に、当時の農林省と建設省の提唱によって始まった「花のまちづくり」運動として展開されています。この運動は、花の魅力を活用して、花のまちづくりのエネルギーにしようとするものであり、花を通じた住民参加による、身近な自然環境や地域文化を大切にし、花や緑を育みながら質の高い生活と美しい風景の共有できる生活環境づくりを進め、潤いのある豊かな社会を目指しています。

子どもが参加する花のまちづくりは、子どもと親、教師、地域住民等大人が、一緒になって、家庭や学校や地域の景観や環境の改善等に、花と緑を取り入れたまちづくり、地域づくりのための活動です。こうした活動を通して、子ども達は、自然体験や人間関係を豊かなものとすることができると考えています。

子どもが花のまちづくりに参加することで期待される教育的効果として、私は、主として次の４点を考えています。

１．心が育つ（豊かな心の育成）　子どもの様々な問題行動の主たる原因である「貧しい心」は、心の栄養不足の状態と考えられます。育つには栄養が必要です。花を育てる活動は、花のもつ「心の癒し」効果が期待でき、子どもが花のまちづくりに参加することによって、子どもの心に栄養が与えられ、豊かな心の育成につながることが期待できると考えます。

２．体力の向上（豊かな体力の育成）　花のまちづくりに参加すると、花を植えたり、除草作業したり、物を運んだり等で、体を動かし、汗をかくことが多く、体力つくりになり豊かな体力の育成につながることが期待できると考えます。

３．自然科学への関心（豊かな学力の育成）　花を育てる活動を通して、子どもたちはタネの蒔き方、肥料のやり方等栽培の知識や技術等を学びます。また育てる過程で、考えたり、工夫したりすることが多くあります。これらの活動は、「豊かな学力の育成」に繋がると考えています。

４．その他　人との多くの交流が生まれ、社会的な成長が促されたり、環境業化、住みよい環境づくりへの意識が高まったりすることなどが期待できます。

次に、 家庭や学校や地域での子どもの活動を実践を踏まえて考えを述べてみます。

１．家庭での花のまちづくり

花のまちづくりの原点は、個人、家庭にあるといわれています。まず、家庭で親子等家族が一緒になって「花や緑」を育む活動をすれば、家族とのふれあう機会も増し、親子や家族同士の絆は、より強くなっていくでしょう。それとともに、子どもの「花や緑」を育む心が育成され、花のまちづくり活動への関心・意欲は、学校や地域でも発揮されるでしょう。地域では大人と子どもが一緒になっての活動が期待されます。私は、家庭での緑化活動として、子どもの誕生、入学等を記念した記念樹として、花木の植樹を勧めています。「この本は、〇が生まれたときに植えた木だよ。」親子の会話が弾みます。また、「オープンガーデン福田」を開いて、自然や人とのふれあいを楽しんでいます。

２．学校での花のまちづくリ ── 私の実践

教師生活の総仕上げとして、私は、子ども達の豊かな発達、とりわけ豊かな心の育成をどうしたらよいのかの課題に取り組みました。それは２１世紀の最大の教育課題とされる「生きる力」の育成につながると考えたからです。それとともに、知・徳・体から徳・体

・知への発想転換も必要であると考えました。

私の最後の勤務校となった原町小学校（略して「はらしょう」）の教育（具体）目標に「はらしょう」の心の育成を掲げました。「はらしょう」の心とは、「は」は、花を育てる心・子（豊かな心の育成)、「ら」は、楽をしないでがんばる心・子（豊かな体力の育成)、「し」は、真剣に自ら学ぶ心・子（豊かな学力の育成)・・・です。豊かな心の発達を図るために、花を育てる心・子の育成に努めました。そのための実践例として、週１回の花集会活動（朝授業前15分間）で、子供たちの事例発表、「草むしり競争」、花いっぱい活動、みんなでポット上げ作業等々を行いました。校庭の除草には、除草剤は一切使用しません。学級対抗や団対抗で「草むしり競争」。５分間で係が説明をし、10分間でどのくらい草をむしり取ることができたかを競うものです。一人で100本～300本をむしり取ることができ、約300人ですので、わずか10分間で５万本前後の雑草をむしり取ることができ、校庭は、たちまち綺麗になりました。花いっぱい活動として、ポーチュラカの児童一斉のさし芽があります。係が前日取って用意しておいたものを、児童が一列に並んで一人１ｍさし芽をする。100人で100m。１か月後には、ポーチュラカが、校庭いっぱい咲き乱れます。ポット上げ作業も一人で10ポット作れば、100人で1000ポットもでき、苗をたくさん育てることができます。これらの活動は、僅かな時間の活動ですが、子ども達にとっては、よき体験の場ともなりました。

子どもたちが、花を育てていますと、そこには自然とのふれあいがあったり、人とのふれあいがあったりします。自然とのふれあいでは、四季折々の花を育てる活動から季節感を味わうことができます。また、美しい花が咲いた時の感動があります。さらに、花を育てる過程で、土の感触を味わったり、花の蜜を求めてやってくる虫たちに出会ったり、様々な花の香りを楽しんだりなど豊かな自然体験ができます。このように、花を育てる活動は、子供たちの五感を刺激し、感性を豊かなものとします。そして、「感じる心」が育っていくのです。さらに、除草をきちんとしないと雑草に負けてしまったり、水やりを適度にしないと枯れてしまったりします。一度枯れてしまったものは、生き返りません。生命の大切さを学びます。このようなことから草花に対する手入れ・管理の大切さを知り、それが草花に対する愛情であることを学ぶことができるでしょう。そして、適切な管理の結果として、美しい花が咲き、気持ちのよい、潤いのある生活環境が創られます。このように花を育てる活動を通して美しい環境づくりができることを学び、家庭や学校や郷土をきれいにする心が育つことが期待できます。

また、子供たちが花を育てていますと、その活動の過程や草花の成長の過程を通して、「○ちゃんのは、大きくなった。」「○子ちゃんのは、もう蕾ができたよ。」「○君のはもう花が咲いた。」等々の肯定的・共感的な会話が交わされるなど花を育てる活動を通しての子ども達の交流は、比較的肯定的で和やかな関係が多く見受けられます。このことは花づくりの作業は、情緒的にプラスに作用するといえます。また、花の管理をしているとそこへ友達がやって来て交流が始まります。このように、花を育てる子どもの対人関係は豊かなものとなります。このように、花を育てる活動は、子どもの自然体験や人間関係を豊かなものとします。従って、花を育てる活動は、子どもの発達にとって大きな教育的効果が期待できると考えるのです。

花そのものは、子供も教師も好きなようですが、花を育てる活動は、両者とも消極的な傾向が感じられました。先生が変わらなければダメです。先生たちにやる気がなければ、子どもはついてこない。そこで、教職員研修として、花を育てるための実習を行ったり、先進校を視察したりしました。先進校視察は、特に効果があったように思います。学校花壇づくりや花のまちづくりなどで成果をあげている学校（全国花のまちづくりコンクールで入賞）を３年間にわたって観てきました。成果をあげた学校の担当者よりの説明は、これからの学校花壇をよりよいものにしていこうとしている教職員にとっては、大きな励みとなったり、取り組みへの関心・意欲を高めたりの効果があったように思います。また、多くの学校は、温床等の施設が不十分です。園芸農家との連携で、一部温床施設を借りて農家の指導で苗作りを行いました。子どもたちや教師は、専門家から花作りを学ぶことができました。育てた花の苗は、子供会を始め、地域にも分けてやりました。こうして、子どもたちは、地域の多くの人達との交流の機会を得ました。

３．子どもの参加する地域での花のまちづくり

子どもの参加する地域での花のまちづくりは、各地域に住民の共同の庭である「コミュニティガーデン」を生みました。この庭で、地域住民が、花見の会を開いたり、盆踊りをしたり、各種のイベントを工夫して開催したりしています。子どもたちにとっては、社会参加や体験学習のよい機会となっています。

家庭や地域での体験を通して、子どもたちは、また新たな課題に気づくこともあるでしょう。それが、子どもの興味、関心を生むことにもなるでしょう。その課題を、学校にもってきて、皆で話し合い、考え、解決方法を見つけ出していく。そして、また、再度、家庭や地域で実践していくのです。このようにして、子どもは、それぞれの生活の場で、豊

かな自然体験、社会体験をすることによって豊かな発達、「生きる力」を身につけることができると考えています。

家庭の日である第一日曜日を、平成８年から地域で「花の里づくりを進める日」として私は、地域住民と協力して、道や小川の河川敷等に花を植え、「花の里」を目指してきました。花を育てる子供の活動は花への興味・関心を高めていきます。「花の里」を、子供たちに「心のふるさと」・「ふるさとの風景」として、残せたらと願っています。そうすれば地域・ふるさとが好きになると考えています。

町への広がりを願って中之条町花の会が平成12年結成されました。会では、花と緑で潤い、安らぐまちづくり　○降りてみたくなる駅　○歩いてみたくなる街　○住んでみたくなる町　中之条～を目指して　花のまちづくり活動を展開しています。特に、親子での参加、孫との参加等子どもの参加する花のまちづくりを目指して取り組み始めています。その波及効果として、ポイ捨てが少なくなり、駅や町が綺麗になった。家庭や地域へ花の輪が広がり、花や緑への関心が高まってきています。また、地域住民同士人との交流が盛んになってきています。

花のまちづくりの先進的な学校からは、非行やいじめや不登校等は、ほとんど見られない、友達関係も良好で、学力も向上しているとの報告が多くなされています。このように花育活動は、花のまちづくり、ひとづくりに繋がっています。

花のまちづくりの先進的な地域では、住民との交流が盛んになり、地域が一つにまとまり、他の地域活動もやりやすくなった。また、犯罪等がなくなり、安全で住みやすくなった。さらに、花壇活動に参加する子ども違が、よくあいさつができ活発になってきた等の報告がたくさんなされています。

花のまちづくりは、個人が原点だと言われています。私は、「花のまちづくり～人と花と自然とのふれあい～」をテーマにオープンガーデンを開いて、多くの人達との交流や四季の変化等自然とのふれあいを楽しんでいます。

私は、「つなぐ」、「かかわる」、「うごく」をキーワードに、地域や多くの人々、とくに、子どもたちとつながり、かかわり、そのためにうごき、気持ちのよい汗をかきたいと考えております。